



交野市学校規模適正化基本計画 (令和5年度 検証・更新資料)

令和6年3月

交野市教育委員会

目 次

はじめに -----	1
第1章 計画の背景・目的等 -----	2
「5. 計画対象施設」の検証・更新資料-----	2
第2章 交野市の教育及び市立小・中学校の現状と将来予測 -----	3
「2. 市立小・中学校の変遷」の検証・更新資料-----	3
「3. 児童生徒数・学級数の推移と将来予測」の検証・更新資料-----	4
「4. 学校施設の配置・学校区状況」の検証・更新資料-----	8
第3章 学校規模適正化の方針と学校適正配置の必要性 -----	9
「1. 交野市の小学校の学級編制における取組み」の検証・更新資料-----	9
第5章 学校適正配置の可能性 -----	10
「2. 第一中学校区 （1）現状と課題」の検証・更新資料 -----	10
「2. 第一中学校区」追加資料 （4）学校適正配置の進捗 -----	12
「3. 第二中学校区 （1）現状と課題」の検証・更新資料 -----	14
「4. 第三中学校区 （1）現状と課題」の検証・更新資料 -----	16
「4. 第三中学校区」追加資料 （4）学校適正配置の進捗（星田駅北地域の学校区）--	18
「5. 第四中学校区 （1）現状と課題」の検証・更新資料 -----	19

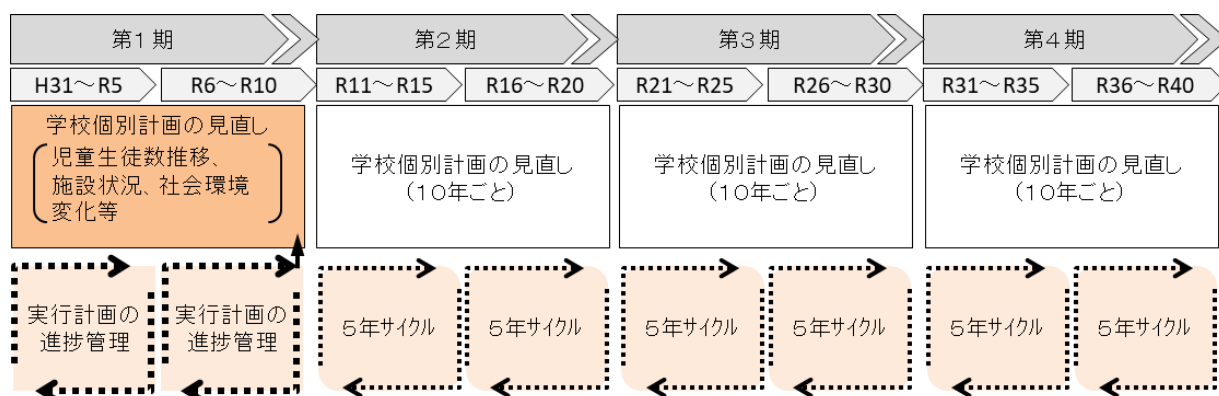
はじめに

平成31年2月に策定しました「交野市学校規模適正化基本計画（以下、「基本計画」という。）」は、平成31年度から令和10年度までの10年間を計画対象期間としており、策定の5年後に検証・更新をしながら、概ね10年後をめどに見直しを図るものとしています。

本資料は、基本計画で示した5年間の検証サイクルに基づき、計画策定後から5年間の経過したこれまでの状況の変化や主要な一部資料の検証・更新結果等をまとめたものです。この5年間で変化のあったすべての内容・資料等を網羅的に更新しているわけではありませんので、その点ご注意ください。

＜参考＞ 基本計画 第7章 1. 計画の見直し より抜粋（和暦表記修正）

図表 計画の見直しサイクル



第1章 計画の背景・目的等

「5. 計画対象施設」の検証・更新資料

令和5年度時点における計画対象施設は、市立小・中学校13校となっています。

図表 計画対象施設一覧

施設名		所在地	敷地面積 (㎡)	総延床面 積 (㎡)	建築年度	令和5年5月1日						備考
						児童・生徒数(人)			学級数			
						普通 学級	支援 学級	計	普通 学級	支援 学級	計	
小学校	星田小学校	星田3-33-4	10,232	4,916	昭和36年	248	31	279	12	5	17	
	郡津小学校	郡津4-13-1	16,000	6,294	昭和42年	489	20	509	18	3	21	
	岩船小学校	森北1-25-1	16,545	6,511	昭和46年	378	17	395	12	3	15	
	倉治小学校	倉治1-15-1	23,563	6,024	昭和49年	643	29	672	22	5	27	
	妙見坂小学校	妙見坂7-20-1	24,524	5,862	昭和48年	381	21	402	14	3	17	
	旭小学校	星田4-18-1	18,655	5,200	昭和51年	277	30	307	12	6	18	
	藤が尾小学校	星田北2-45-1	19,367	5,702	昭和52年	273	18	291	12	3	15	
	私市小学校	私市9-5-10	51,706	5,551	昭和54年	364	26	390	13	5	18	
	交野みらい小学校	郡津1-43-1	20,772	5,830	昭和49年	666	59	725	24	9	33	交野小学校と長宝寺小 学校の統合校。長宝寺 小学校敷地にて令和4 年4月開校
小学校 計			201,364	51,890		3,719	251	3,970	139	42	181	
中学校	第一中学校	私部南3-1-1	16,707	7,051	昭和34年	311	18	329	9	4	13	
	第二中学校	幾野4-1-1	20,101	8,094	昭和47年	583	17	600	15	3	18	
	第三中学校	星田8-67-1	22,384	8,788	昭和49年	488	26	514	14	4	18	
	第四中学校	天野が原町5-65-1	19,618	8,094	昭和57年	473	17	490	13	3	16	
中学校 計			78,810	32,027		1855	78	1933	51	14	65	
小・中学校 計			280,174	83,917		5,574	329	5,903	190	56	246	

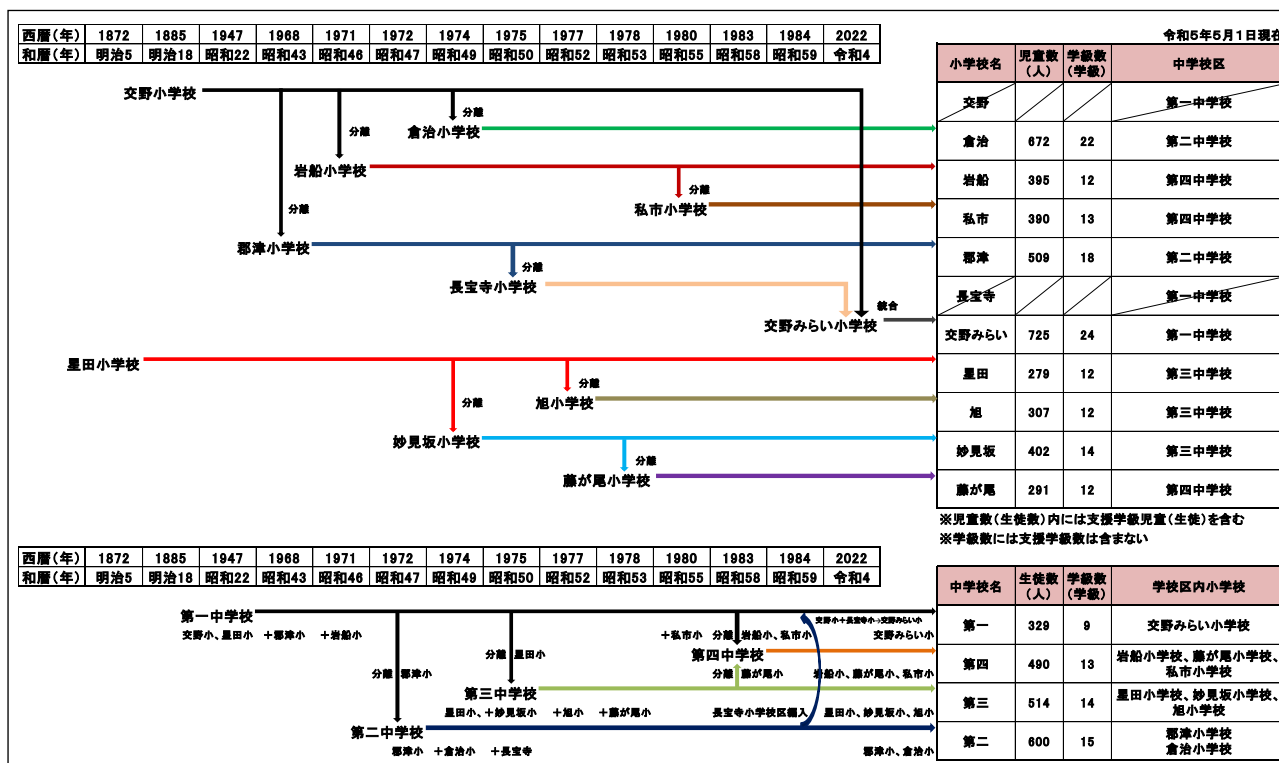
※「建築年度」は、校舎棟（又は特別教室棟など主要棟）で最も古い建築年度を記入

第2章 交野市の教育及び市立小・中学校の現状と将来予測

「2. 市立小・中学校の変遷」の検証・更新資料

令和4年度に交野小学校と長宝寺小学校が統合し、新たに交野みらい小学校が開校したことで、現在では、小学校9校、中学校4校となっています。

図表 市立小・中学校の変遷状況



「3. 児童生徒数・学級数の推移と将来予測」の検証・更新資料

基本計画 P6～9

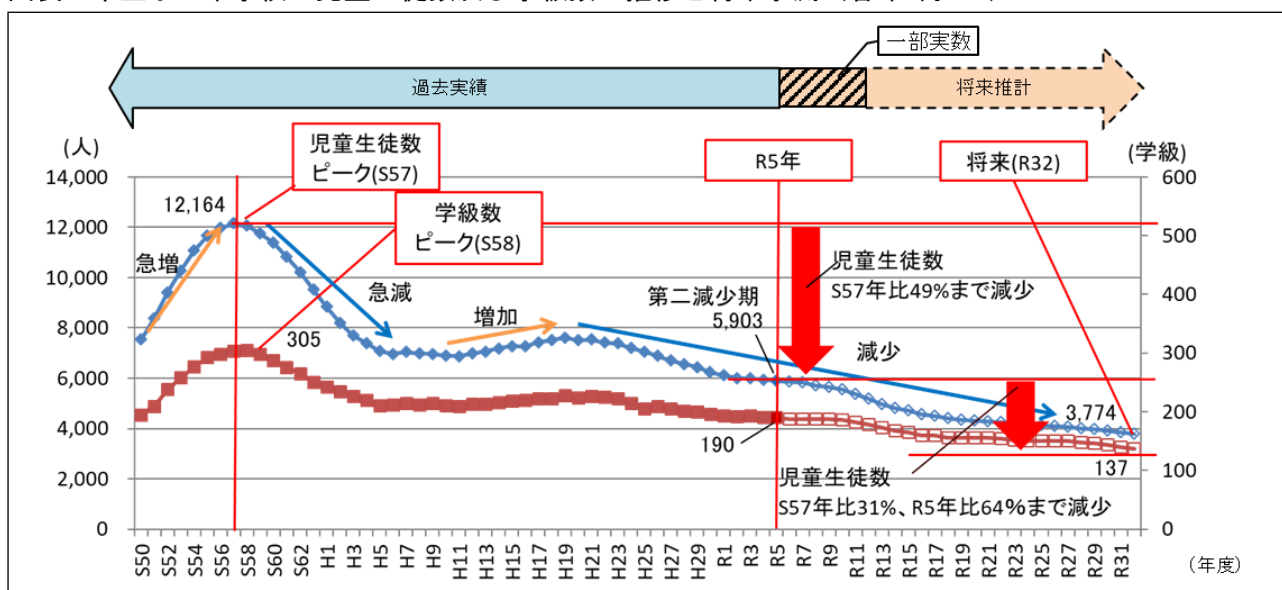
令和5年度時点における市立小・中学校の児童生徒数及び学級数の推移と将来予測等は、以下のとおりです。

※「適正化基本方針」では、「交野市の小学校の適正規模は12～24学級（1学年あたり2～4学級）。11学級以下を小規模。中学校の適正規模は9～18学級（19～24学級も許容する）。8学級以下を小規模。」としています。

※資料は、令和6年度から令和11年度までは令和5年5月1日時点の0歳から5歳児までの人口から私立小中学校就学者数を除いた値とし、令和12年度以降は令和5年5月1日時点の児童生徒数に国立社会保障・人口問題研究所推計値等で試算しています。

（1）市立小・中学校の児童生徒数・学級数の推移と将来予測

図表 市立小・中学校の児童生徒数及び学級数の推移と将来予測（各年5月1日）

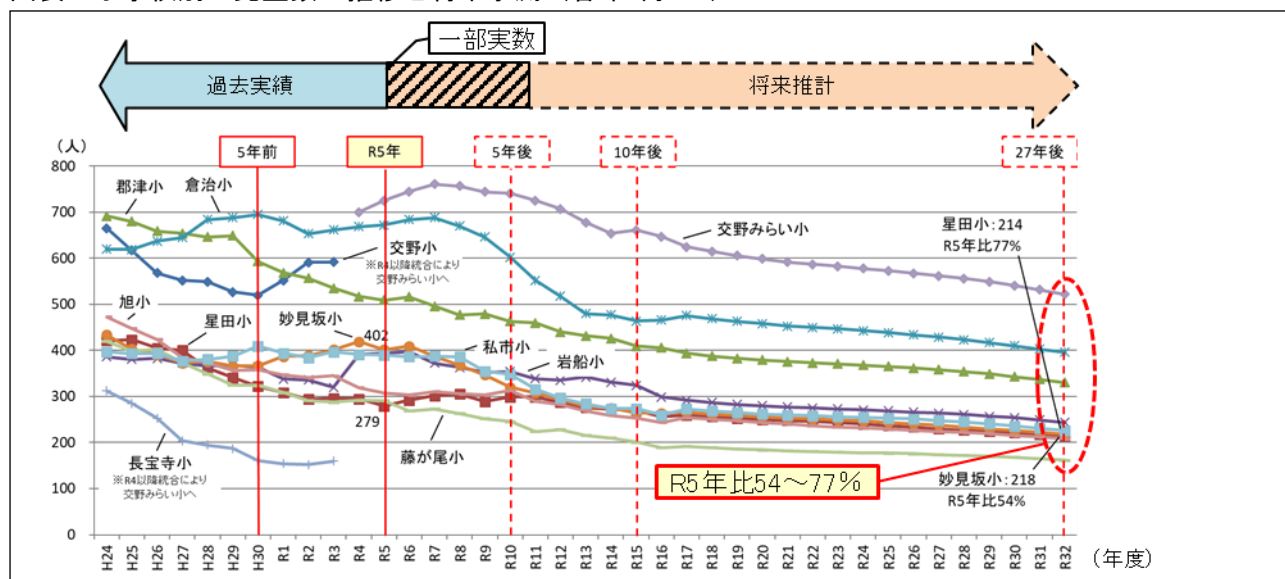


※児童生徒数には、支援学級在籍児童生徒数を含む。

※学級数は、普通学級数（支援学級数は含まない）としている。

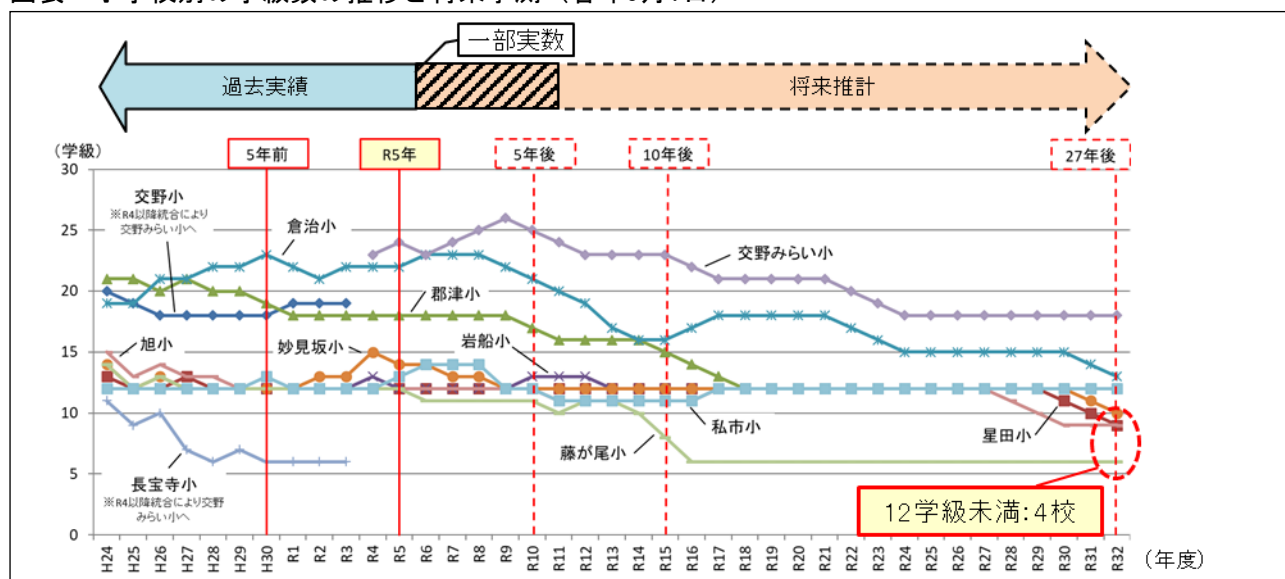
(2) 小学校別の児童数・学級数の推移と将来予測

図表 小学校別の児童数の推移と将来予測（各年5月1日）



※児童数には、支援学級在籍児童数を含む。

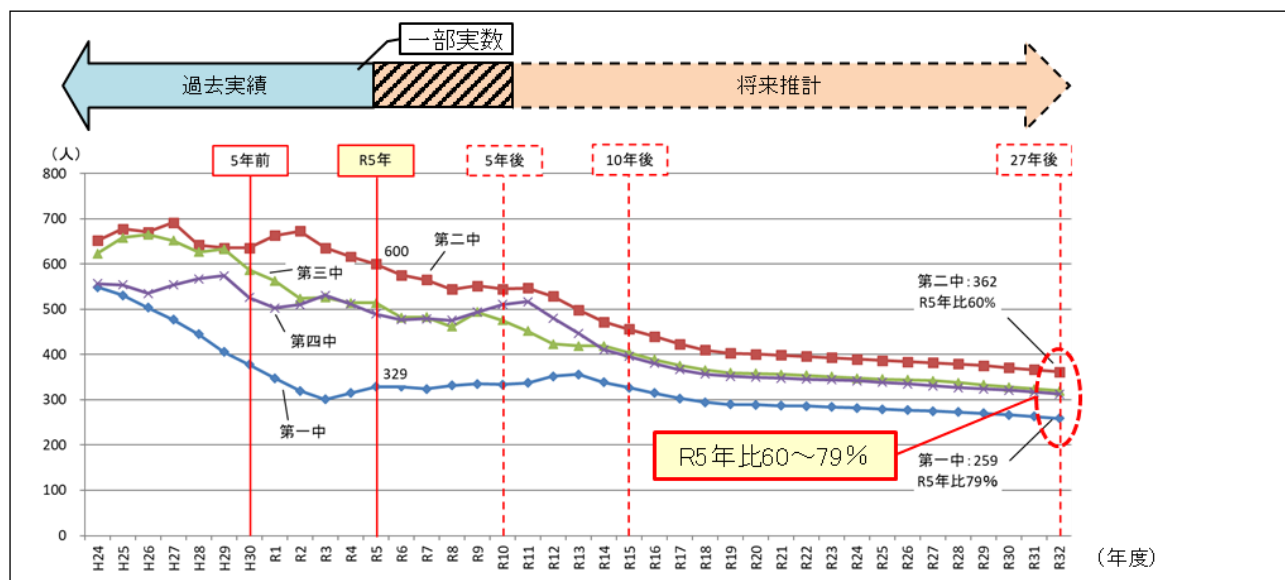
図表 小学校別の学級数の推移と将来予測（各年5月1日）



※学級数は、普通学級数（支援学級数は含まない）としている。

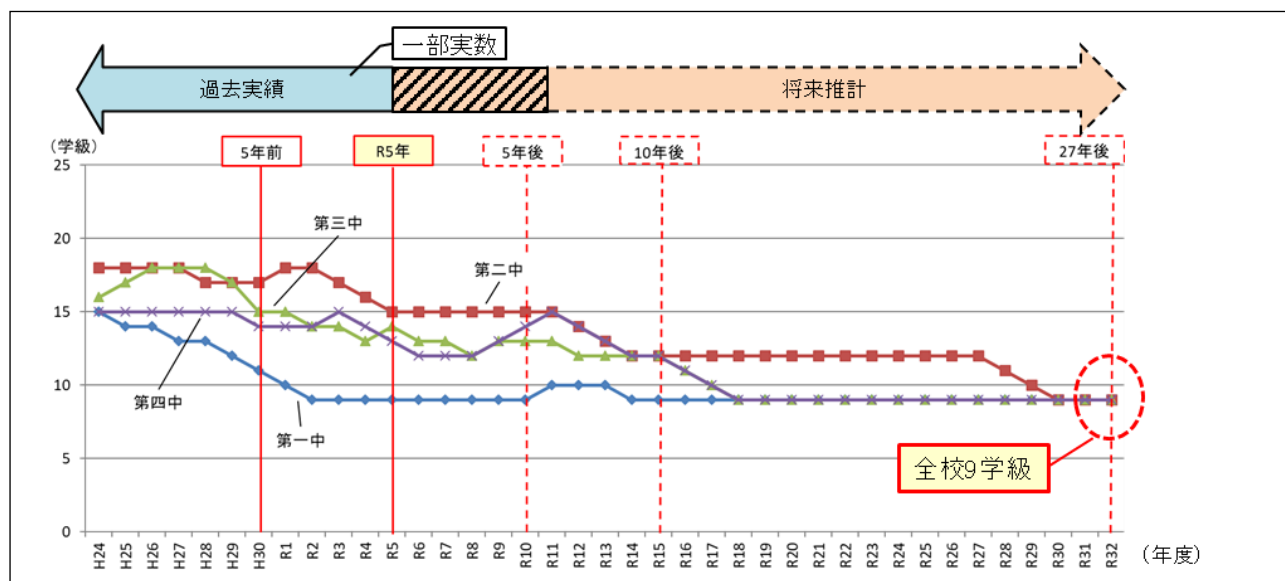
(3) 中学校別の生徒数・学級数の推移と将来予測

図表 中学校別の生徒数の推移と将来予測（各年5月1日）



※生徒数には、支援学級在籍生徒数を含む。

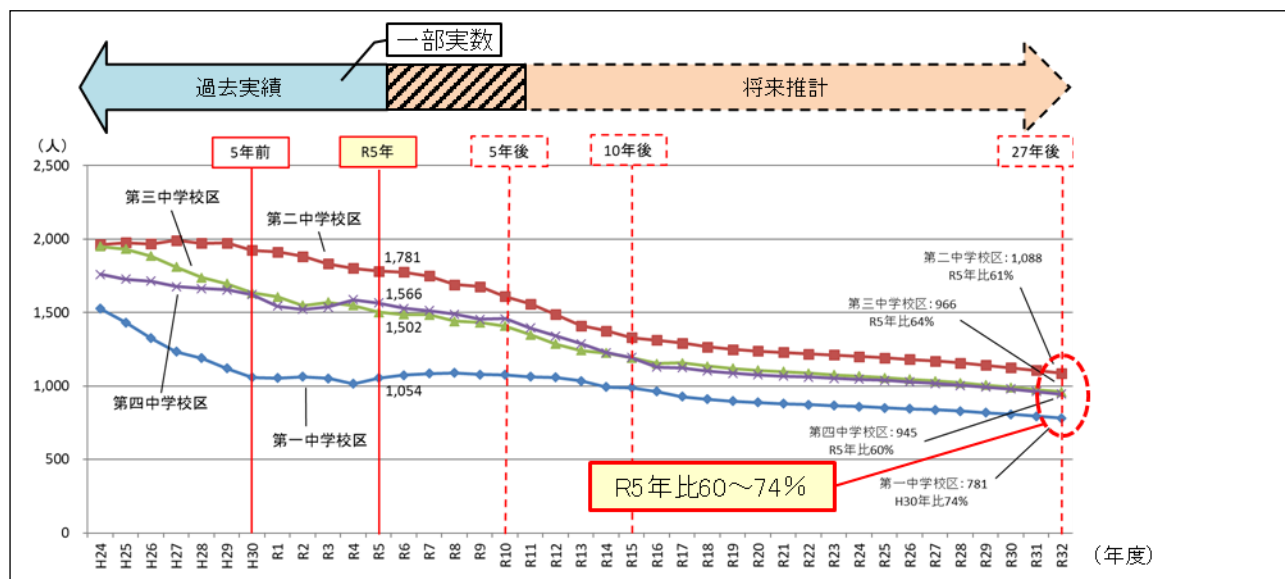
図表 中学校別の学級数の推移と将来予測（各年5月1日）



※学級数は、普通学級数（支援学級数は含まない）としている。

(4) 中学校区別の児童生徒数の推移と将来予測

図表 中学校区別の児童生徒数の推移と将来予測（各年5月1日）



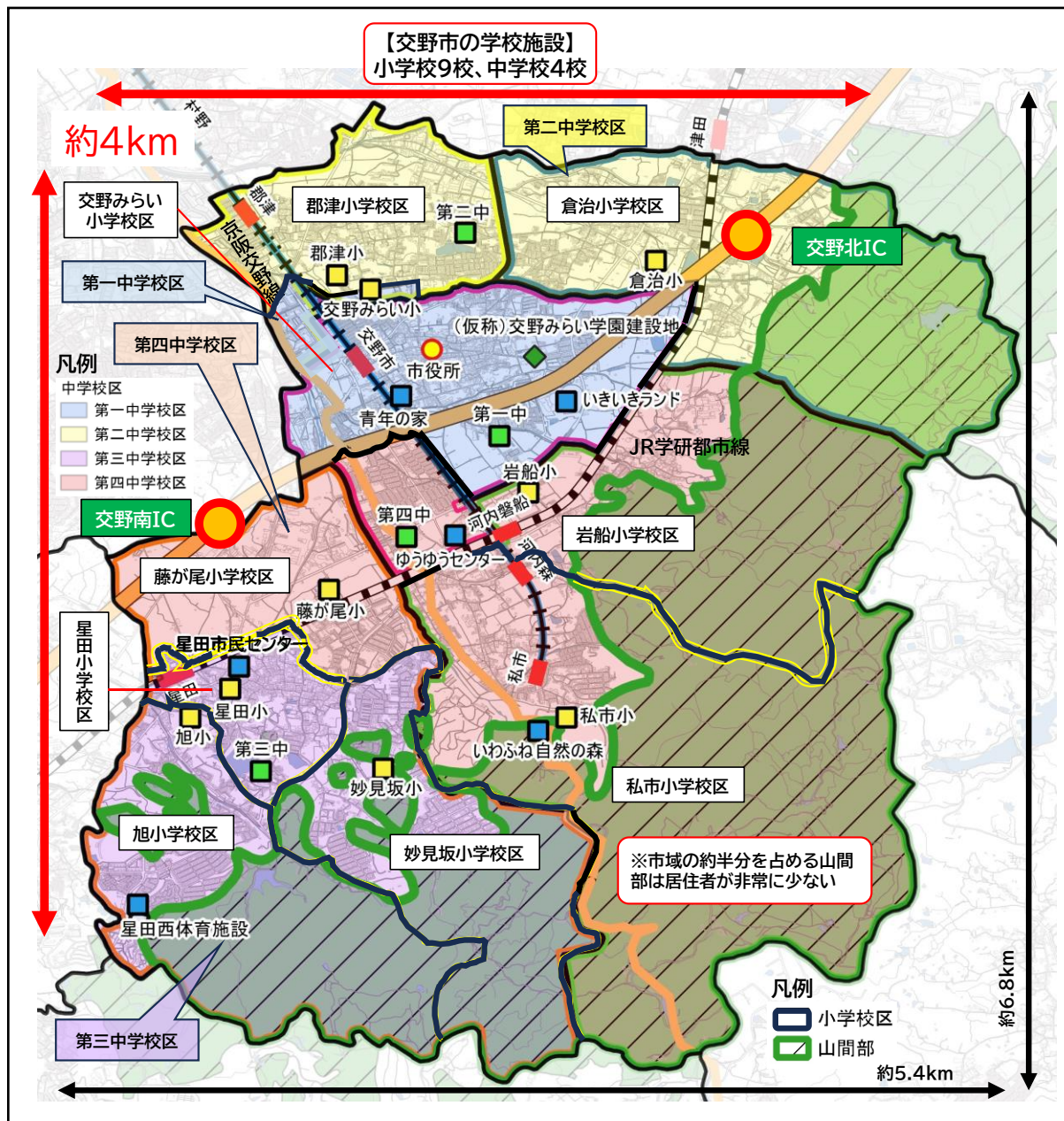
※児童生徒数には、支援学級在籍児童生徒数を含む。

「4. 学校施設の配置・学校区状況」の検証・更新資料

基本計画 P10

(1) 学校施設の配置と学校区の状況

図表 学校区の状況



第3章 学校規模適正化の方針と学校適正配置の必要性

「1. 交野市の小学校の学級編制における取組み」の検証・更新資料

小・中学校の学級編制については、国の法令により定められています。国の法令では、令和2年度までは小学校1年生が35人以下の学級編制、2年生以上は40人以下の学級編制となっていました。しかし、国では令和2年度の法改正により、令和3年度より35人以下の学級編成を段階的に拡大しており、令和7年度には小学校全学年で35人学級となる見込みとなっています。

一方、本市では、国に先駆けて平成29年度から小学校全学年で35人以下学級としていました。さらに、本市では令和6年度以降、以下のとおり小学校1年生から3年生まで段階的に30人以下の学級編成を導入することとしています。

図表 交野市における30人以下学級の導入イメージ

	R5	R6	R7	R8～
1年生			30人学級	
2年生				
3年生				
4年生		35人学級		
5年生				
6年生				

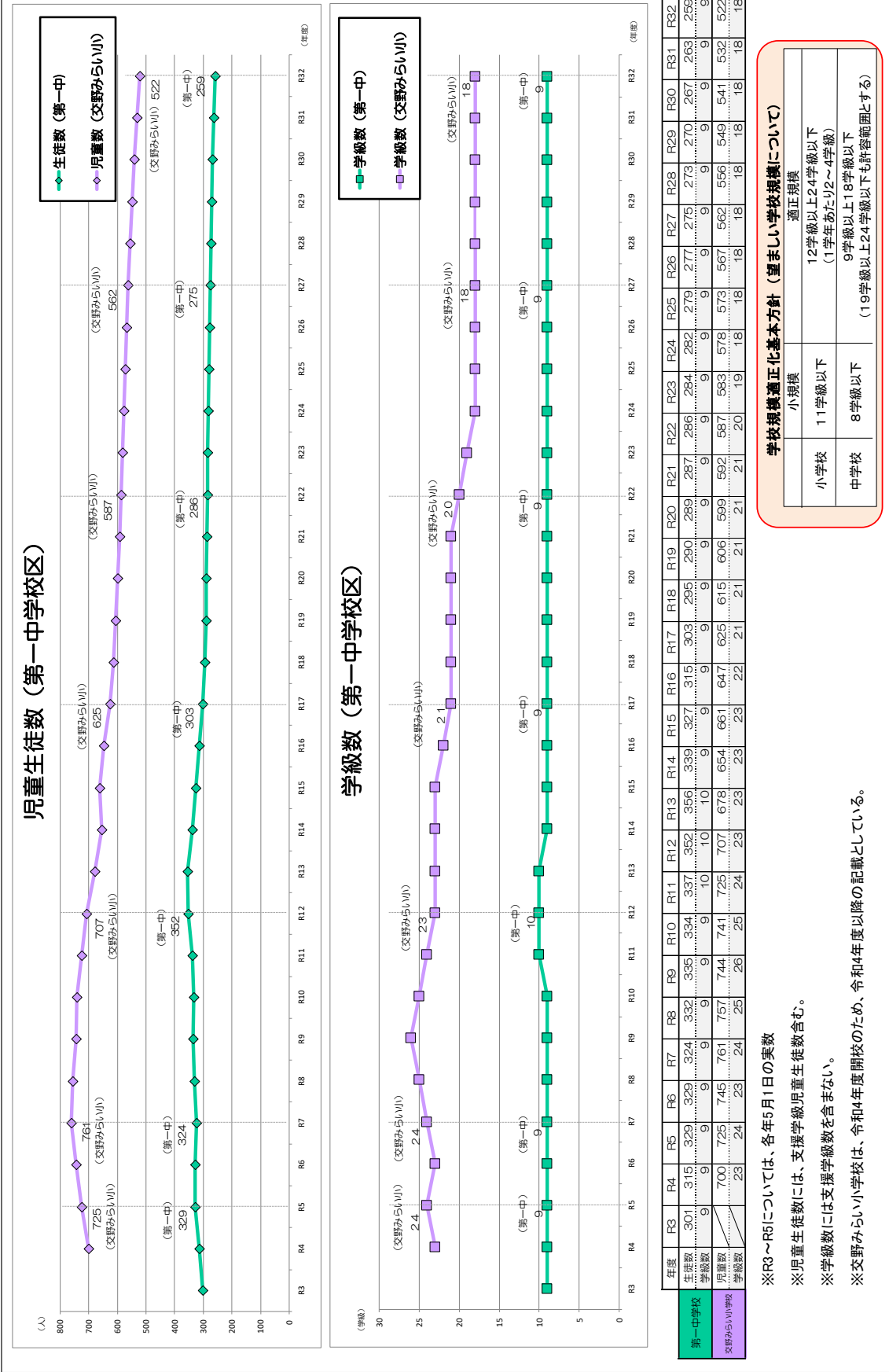
※30人以下学級とは、1学級内の人数を30人以下とする学級編制のことで、1学年の人数が30人の場合、1学級（30人）の学級編制となり、1学年の人数が31人の場合、2学級（16人の学級と15人の学級）の学級編制となる。35人以下学級編制の場合、1学年の人数が31人の場合は、1学級（31人）の学級編制となる。

第5章 学校適正配置の可能性

「2. 第一中学校区 (1) 現状と課題」の検証・更新資料

①児童生徒数・学級数の将来推計

令和5年5月時点



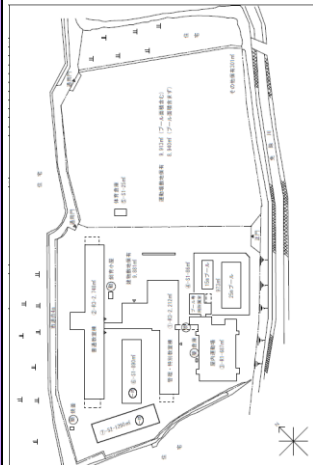
②学校施設の諸元

R6.3時点

第一中学校

交野みらい小学校





敷地面積	17,827㎡	20,095㎡
運動場面積	11,567㎡	9,913㎡
延床面積	7,051㎡	5,830㎡
建築年度	校舎※1 1959(S34)年(建築後64年) 体育館 1960(S35)年(建築後63年)	1974(S49)年(建築後49年) 1975(S50)年(建築後48年)
長寿命化判定※4	校舎 ○ 体育館 不明	○ ×
長寿命化した場合の残存年数	校舎 16年(建替時期:令和21年) 体育館 —	31年(建替時期:令和36年) —
健全度評価※2	校舎 68 体育館 100	78 51

※1 校舎の建築年度は棟別に異なるため、延床面積1,000㎡以上の棟のうち、もっとも古い棟の建築年度を記載している。

※2 健全度評価は、平成30年10月末時点における、各棟で②の部位ごとに、①の種別で評価し、③の式で健全度を評価。

※3 校舎の健全度評価は、下の式にて算出。

①部位の健全度

評価	健全度
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	7.2
2 外壁	14.9
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 給排水設備	6.0
6 空調設備	1.0
7 昇降機その他	0.5
計	60.0

③健全度

総和(部位の健全度×部位のコスト配分)
評価対象部位がオールAの点数
※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が大きいほど健全、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

A: 概ね良好
B: 安全上、機能上、問題なし
C: 安全上、機能上、劣化の兆しがみられる
D: 劣化の程度が大きく、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある

〔面積(棟1)×健全度(棟1)+……+面積(棟n)×健全度(棟n)〕
面積(棟1+……+棟n)

= 校舎の健全度

※4 平成30年3月末時点の判定結果

「2. 第一中学校区」追加資料

新規（基本計画 P44・45の間）

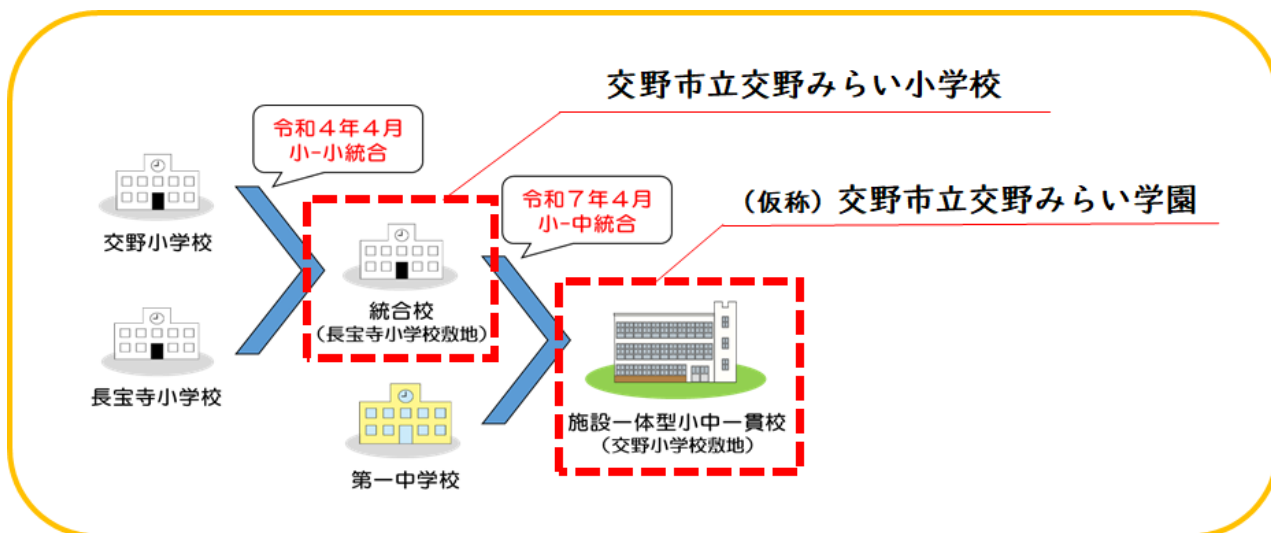
（4）学校適正配置の進捗

第一中学校区の学校適正配置については、基本計画において交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合し、交野小学校敷地に、施設一体型小中一貫校を設置するとの方向性が示されました。

この方向性を受けて、市教育委員会では、施設一体型小中一貫校の整備に向けて地域住民や教職員、学校関係者等の意見聴取の場として「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」の開催や交野市学校教育審議会での審議を経て、令和2年3月には新たな学校づくりの基本的な考え方を取りまとめた「交野市立第一中学校区 魅力ある学校づくり事業 基本方針・基本計画」（以下「魅力ある学校づくり事業基本計画」という。）を策定しました。魅力ある学校づくり事業基本計画では、令和7年4月までに上述の施設一体型小中一貫校の開校を目指すことや、施設一体型小中一貫校の整備期間中の学びの場を確保するため、令和4年4月に長宝寺小学校の敷地に交野小学校と長宝寺小学校の統合校を開校することなどの方向性が示されました。

その後、令和2年度には、交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校の関係者が、新たな学校の開校に向けた諸課題について、意見交換を行い、施設一体型小中一貫校開校の円滑な準備に資するため「第一中学校区における魅力ある学校の開校準備委員会」（以下「開校準備委員会」という。）を設置し、統合校の校名、校歌、校章、登下校の安全に関すること、地域協働に関することなどについて調査・検討を進めました。また、開校準備委員会での検討を経て、令和7年4月までに開校を目指す施設一体型小中一貫校は「（仮称）交野みらい学園」に、交野小学校と長宝寺小学校の統合校は「交野みらい小学校」にそれぞれ名称が決まり、令和4年4月には交野みらい小学校が開校しました。

図表 統合のイメージ図



また、基本計画では上述の学校適正配置にあわせて、学校区と地区の境界が一致していない地域について、将来に向けた望ましい学校区を検討することとされていました。

第一中学校区では、学校区と地区の境界が一致していない地域として「郡津 1 丁目一部地域」「私部西 5 丁目一部地域」の 2 地域があります。

これら 2 地域の将来に向けた望ましい学校区について検討を行った結果、「郡津 1 丁目一部地域」については、令和 3 年 12 月に策定された「第一中学校区における学校区と地区の境界が一致していない地域の望ましい学校区の方角性について」において、以下のとおり校区変更するとの方角性が示されました。一方、「私部西 5 丁目一部地域」の望ましい学校区については、検討の結果現状の学校区を維持することが望ましいとの方角性が示されました。

● 郡津 1 丁目一部地域

対 象 地 域：郡津 1 丁目 1 番から 3 番まで、37 番から 43 番まで

上記地域の学校区： 交野みらい小学校区（第一中学校区）

※令和 3 年度まで、長宝寺小学校区（第一中学校区）

※上記以外の郡津地区は、すべて郡津小学校区

【対象地域の望ましい学校区の方角性】

上述の郡津 1 丁目一部地域の学校区は「（仮称）交野みらい学園」の開校（令和 7 年度の見込み）にあわせて、現在の交野みらい小学校区（第一中学校区）から郡津小学校区（第二中学校区）に変更することとする。

図表 郡津 1 丁目一部地域の位置図



● 私部西 5 丁目一部地域

対 象 地 域：私部西 5 丁目 21 番から 32 番まで、982 番地 1 及び 2

上記地域の学校区： 藤が尾小学校区（第四中学校区）

※上記以外の私部地区は、すべて交野みらい小学校区（令和 3 年度まで、交野小学校区）

【対象地域の望ましい学校区の方角性】

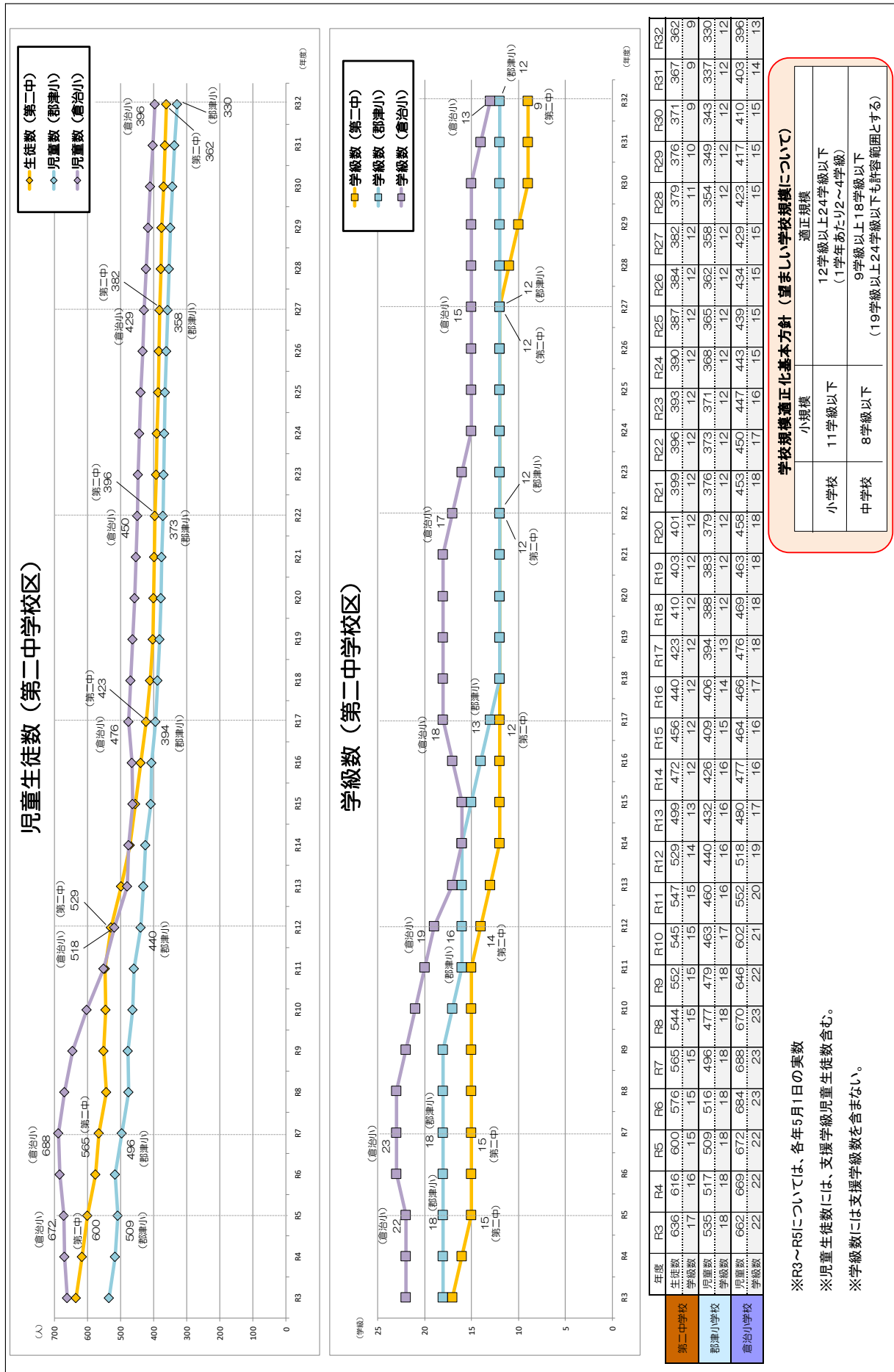
現状の学校区を維持

「3. 第二中学校区 (1) 現状と課題」の検証・更新資料

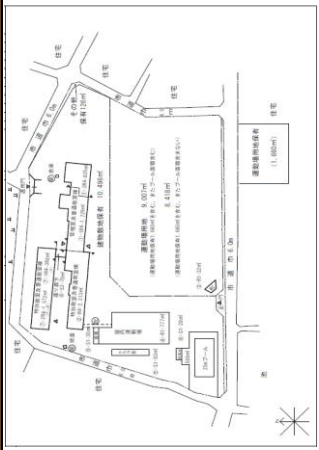
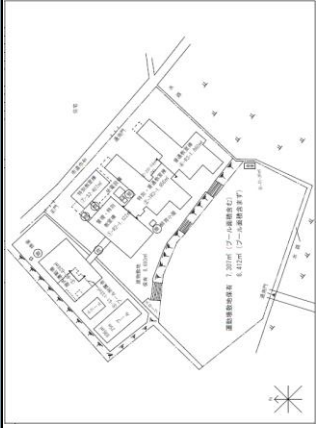
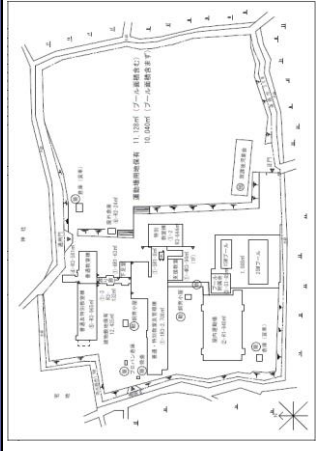
基本計画 P46～49

①児童生徒数・学級数の将来推計

令和5年5月時点



②学校施設の諸元

R6.3時点			倉治小学校	
第二中学校			郡津小学校	
				
				
敷地面積			19,631㎡	23,563㎡
運動場面積			9,007㎡	11,128㎡
延床面積			8,094㎡	6,024㎡
建築年度	校舎※1	1972(S47)年 (建築後51年)	1967(S42)年 (建築後56年)	1974(S49)年 (建築後49年)
	体育館	1972(S47)年 (建築後51年)	1970(S45)年 (建築後53年)	1974(S49)年 (建築後49年)
長寿命化判定※4	校舎	○	○	○
	体育館	×	○	×
長寿命化した場合の残存年数	校舎	29年 (建替時期: 令和34年)	24年 (建替時期: 令和29年)	31年 (建替時期: 令和36年)
	体育館	—	27年 (建替時期: 令和32年)	—
健全度評価※2	校舎	65	55	78
	体育館	80	75	31

※1 校舎の建築年度は棟別に異なるため、延床面積1,000㎡以上の棟のうち、もっとも古い棟の建築年度を記載している。

※2 健全度評価は、平成30年10月末時点における、各棟で②の部位ごとに、①の種別で評価し、③の式で健全度を評価。

※3 校舎の健全度評価は、下の式にて算出。

①部位の健全度

評価	健全度
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	7.2
2 外壁	14.9
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 給排水設備	6.0
6 空調設備	1.0
7 昇降機その他	0.5
計	60.0

③健全度

総和(部位の健全度×部位のコスト配分)
評価対象部位がオールAの点数

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。

※健全度は、数値が大きいほど健全、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

A: 概ね良好

B: 安全上、機能上、問題なし

C: 安全上、機能上、劣化の兆しがみられる

D: 劣化の程度が大きく、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある

$$\frac{[\text{面積}(\text{棟1}) \times \text{健全度}(\text{棟1}) + \dots + \text{面積}(\text{棟n}) \times \text{健全度}(\text{棟n})]}{\text{面積}(\text{棟1} + \dots + \text{棟n})} = \text{校舎の健全度}$$

※4 平成30年3月末時点の判定結果

15

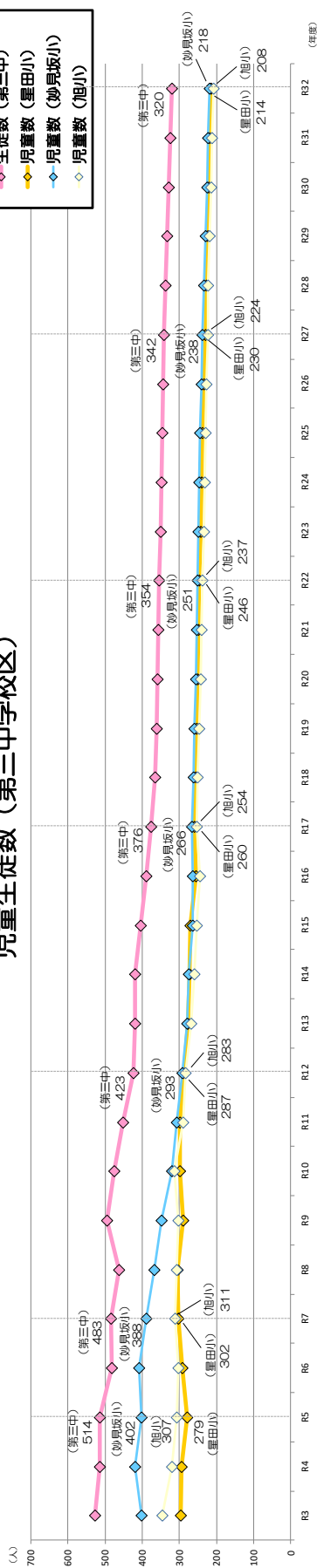
「4. 第三中学校区 (1) 現状と課題」の検証・更新資料

基本計画 P60～63

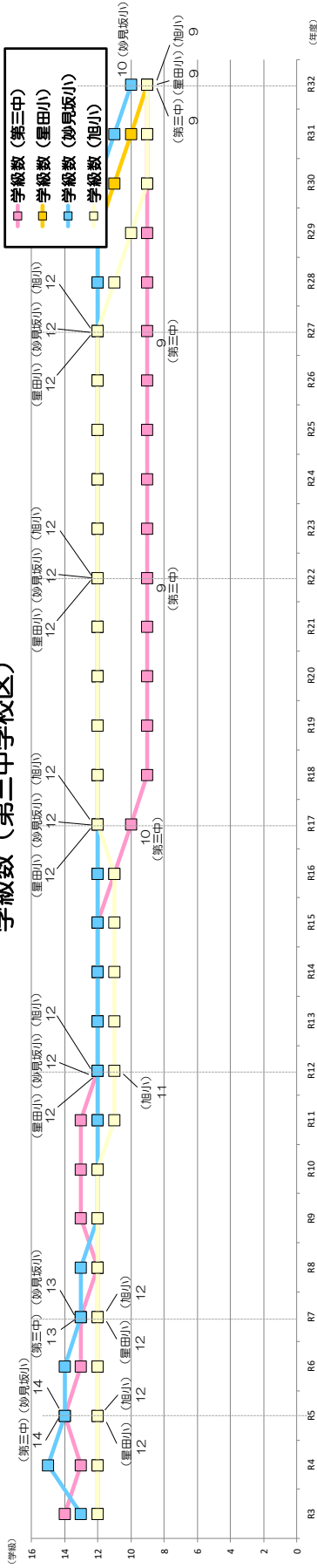
①児童生徒数・学級数の将来推計

令和5年5月時点

児童生徒数 (第三中学校区)



学級数 (第三中学校区)



年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32		
第三中学校	生徒数	526	514	514	482	483	482	494	476	452	423	419	419	404	389	376	366	360	358	356	354	351	348	346	344	342	338	333	328	324	320	
	学級数	14	13	14	13	13	13	12	13	13	13	12	12	12	11	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
星田小学校	児童数	296	295	279	292	302	305	289	299	299	287	276	272	270	256	260	256	253	250	248	246	243	240	237	234	230	227	224	221	218	214	214
	学級数	402	412	402	409	388	368	347	320	308	293	278	275	264	264	266	262	259	256	253	251	249	247	244	241	238	234	230	226	222	218	218
妙見坂小学校	児童数	13	15	14	14	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	10	9
	学級数	345	319	307	303	311	306	303	313	290	283	269	259	253	244	254	250	247	243	240	237	234	232	229	227	224	222	219	215	212	208	208
旭小学校	児童数	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	10	9	9	9	9

学校規模適正化基本方針 (望ましい学校規模について)

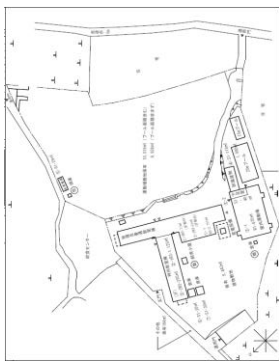
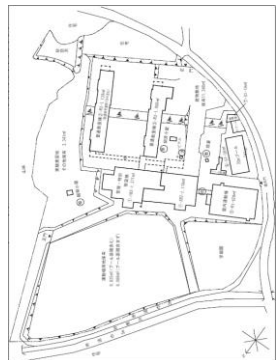
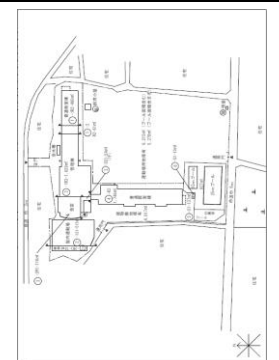
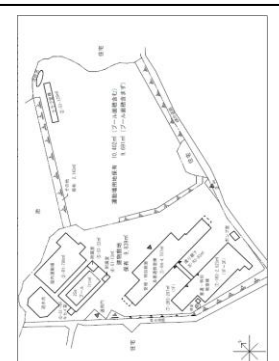
適正規模	
小学校	12学級以上24学級以下 (1学年あたり2～4学級)
中学校	9学級以上18学級以下 (19学級以上24学級以下も許容範囲とする)

※R3～R5については、各年5月1日の実数

※児童生徒数には、支援学級児童生徒数含む。

※学級数には支援学級数を含まない。

②学校施設の諸元

R6.3時点					旭小学校	妙見坂小学校	星田小学校	第三中学校
								
敷地面積					18,655㎡ (第三給食センター跡地1322㎡あり)	24,524㎡	10,232㎡	22,384㎡
運動場面積					10,018㎡	9,835㎡	6,215㎡	10,402㎡
延床面積					5,200㎡	5,862㎡	4,916㎡	8,788㎡
建築年度	校舎※1	1974(S49)年(建築後49年)	1961(S36)年(建築後62年)	1973(S48)年(建築後50年)	1976(S51)年(建築後47年)	1974(S49)年(建築後49年)	1975(S50)年(建築後48年)	1974(S49)年(建築後49年)
	体育館	1975(S50)年(建築後48年)	1966(S41)年(建築後57年)	1974(S49)年(建築後49年)	1977(S52)年(建築後46年)			
長寿命化判定※4	校舎	○	○	○	○	○	○	○
	体育館	×	○	×	×	×	×	×
長寿命化した場合の残存年数	校舎	31年(建替時期:令和36年)	18年(建替時期:令和23年)	30年(建替時期:令和35年)	33年(建替時期:令和38年)			
	体育館	—	23年(建替時期:令和28年)					
健全度評価※2	校舎	59	44	72	69			
	体育館	100	91	31	30			
敷地面積					18,655㎡ (第三給食センター跡地1322㎡あり)	24,524㎡	10,232㎡	22,384㎡
運動場面積					10,018㎡	9,835㎡	6,215㎡	10,402㎡
延床面積					5,200㎡	5,862㎡	4,916㎡	8,788㎡
建築年度	校舎※1	1974(S49)年(建築後49年)	1961(S36)年(建築後62年)	1973(S48)年(建築後50年)	1976(S51)年(建築後47年)	1974(S49)年(建築後49年)	1975(S50)年(建築後48年)	1974(S49)年(建築後49年)
	体育館	1975(S50)年(建築後48年)	1966(S41)年(建築後57年)	1974(S49)年(建築後49年)	1977(S52)年(建築後46年)			
長寿命化判定※4	校舎	○	○	○	○	○	○	○
	体育館	×	○	×	×	×	×	×
長寿命化した場合の残存年数	校舎	31年(建替時期:令和36年)	18年(建替時期:令和23年)	30年(建替時期:令和35年)	33年(建替時期:令和38年)			
	体育館	—	23年(建替時期:令和28年)					
健全度評価※2	校舎	59	44	72	69			
	体育館	100	91	31	30			

※1 校舎の建築年度は棟別に異なるため、延床面積1,000㎡以上の棟のうち、もっとも古い棟の建築年度を記載している。

※2 健全度評価は、平成30年10月末時点における、各棟で②の部位ごとに、①の種別で評価し、③の式で健全度を評価。

※3 校舎の健全度評価は、下の式にて算出。

①部位の健全度

評価	健全度
A	100
B	75
C	40
D	10

A: 概ね良好
B: 安全上、機能上、問題なし
C: 安全上、機能上、劣化の兆しがみられる
D: 劣化の程度が大きく、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	7.2
2 外壁	14.9
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 給排水設備	6.0
6 空調設備	1.0
7 昇降機その他	0.5
計	60.0

③健全度

総和(部位の健全度×部位のコスト配分)
評価対象部位がオールAの点数
※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が大きいほど健全、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

〔面積(棟1)×健全度(棟1)+…+面積(棟n)×健全度(棟n)〕
面積(棟1+…+棟n)

= 校舎の健全度

※4 平成30年3月末時点の判定結果

17

「４．第三中学校区」追加資料

新規（基本計画 P94・95の間）

（４）学校適正配置の進捗（星田駅北地域の学校区）

星田駅北地域（星田北６・７・８・９丁目）の学校区については、学校教育審議会による審議や地域の方々のご意見等も踏まえて、令和３年度より以下のとおりとなっています。

＜星田駅北地域の学校区＞

学校区	地域
星田小学校区（第三中学校区）	星田北７丁目３番、４番１号から１０号、５番、６番、７番５号から６号、９番、１１番、１２番、１３番１号から２４号、１７番から１９番、２０番１号から７号、２１番８号から１０号、２２番
藤が尾小学校区（第四中学校区）	星田北６・８・９丁目、星田北７丁目（星田小学校区を除く。）

※星田北７丁目のうち、星田小学校区（第三中学校区）の地域は、星田北エリアのまちづくり対象区域外となっており、星田小学校区（第三中学校区）以外の地域は、星田北エリアのまちづくり対象区域となっています。

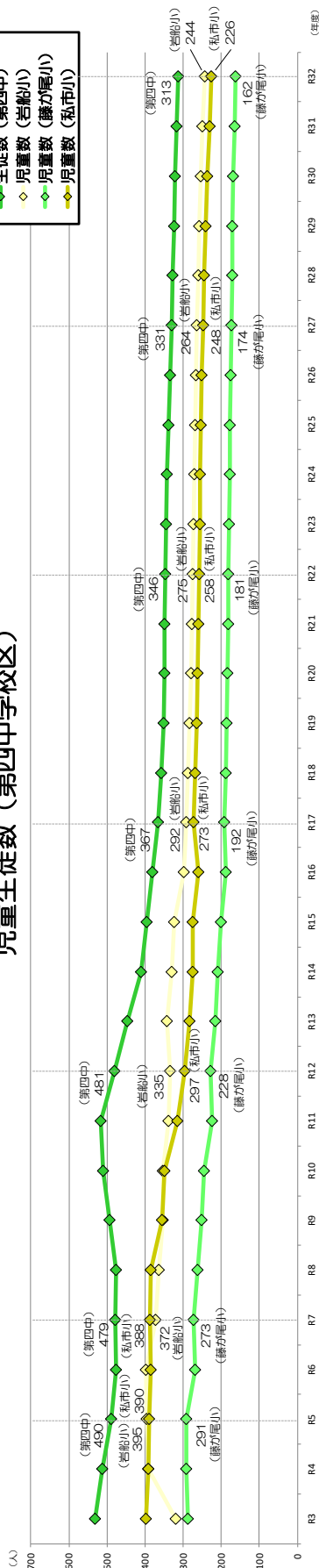
「5. 第四中学校区 (1) 現状と課題」の検証・更新資料

基本計画 P96～99

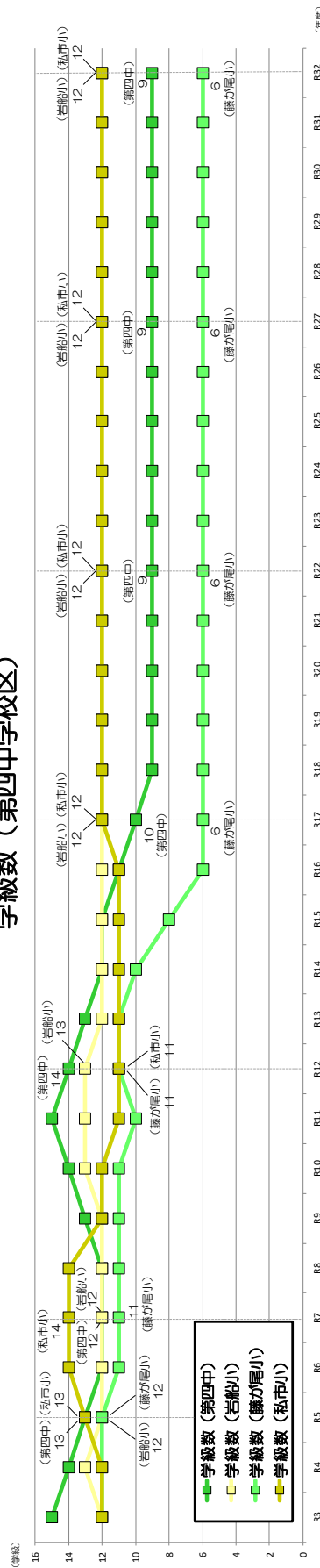
①児童生徒数・学級数の将来推計

令和5年5月時点

児童生徒数 (第四中学校区)



学級数 (第四中学校区)



年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	
第四中学校	生徒数	531	512	490	477	479	476	494	511	517	481	447	411	396	381	367	357	352	350	348	346	344	342	339	335	331	327	324	321	317	313
	学級数	15	14	13	12	12	12	13	14	15	14	13	12	12	11	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
岩船小学校	児童数	320	392	395	397	372	363	353	354	339	335	342	331	324	299	292	287	283	280	277	275	273	271	269	266	264	261	257	254	249	244
	学級数	12	13	12	12	12	12	12	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
藤が尾小学校	児童数	288	292	291	269	273	263	252	246	224	228	216	210	201	189	192	189	186	184	182	181	179	178	177	176	174	172	170	168	165	162
	学級数	12	12	12	11	11	11	11	11	10	11	11	10	8	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
私市小学校	児童数	397	391	390	386	388	386	355	348	316	297	284	274	274	260	273	269	265	262	260	258	256	255	253	251	248	245	241	236	231	226
	学級数	12	12	13	14	14	14	12	12	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

学校規模適正化基本方針 (望ましい学校規模について)

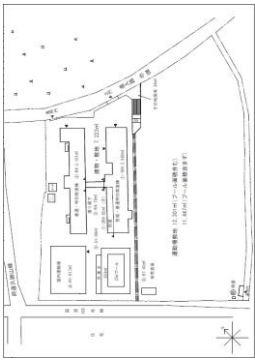
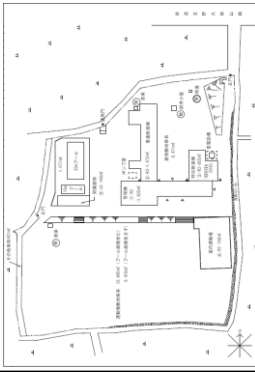
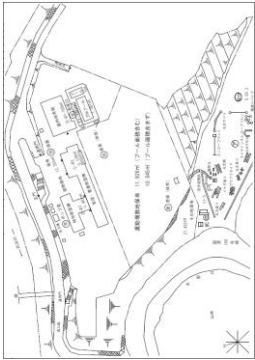
学校規模		適正規模
小学校	11学級以下	12学級以上24学級以下 (1学年あたり2~4学級)
中学校	8学級以下	9学級以上18学級以下 (19学級以上24学級以下も許容範囲とする)

※R3～R5については、各年5月1日の実数

※児童生徒数には、支援学級児童生徒数含む。

※学級数には支援学級数を含まない。

②学校施設の諸元

R6.3時点			
第四中学校	岩船小学校	藤が尾小学校	私市小学校
			
敷地面積	19,618㎡	16,545㎡	51,706㎡
運動場面積	12,301㎡	9,796㎡	11,926㎡
延床面積	8,094㎡	6,511㎡	5,551㎡
建築年度	校舎※1 1982(S57)年(建築後41年) 体育館 1982(S57)年(建築後41年)	1971(S46)年(建築後52年) 1972(S47)年(建築後51年)	1979(S54)年(建築後44年) 1979(S54)年(建築後44年)
長寿命化判定※4	校舎 ○ 体育館 ○	○ ×	○ ○
長寿命化した場合の残存年数	39年(建替時期:令和44年) 39年(建替時期:令和44年)	28年(建替時期:令和33年)	36年(建替時期:令和41年) 36年(建替時期:令和41年)
健全度評価※2	校舎 72 体育館 92	62 75	59 83

※1 校舎の建築年度は棟別に異なるため、延床面積1,000㎡以上の棟のうち、もっとも古い棟の建築年度を記載している。

※2 健全度評価は、平成30年10月末時点における、各棟で②の部位ごとに、①の種別で評価し、③の式で健全度を評価。

※3 校舎の健全度評価は、下の式にて算出。

①部位の健全度

評価	健全度
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	7.2
2 外壁	14.9
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 給排水設備	6.0
6 空調設備	1.0
7 昇降機その他	0.5
計	60.0

③健全度

総和(部位の健全度×部位のコスト配分)
評価対象部位がオールAの点数
※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が大きいほど健全、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

$$\frac{[\text{面積(棟1)} \times \text{健全度(棟1)} + \dots + \text{面積(棟n)} \times \text{健全度(棟n)}]}{\text{面積(棟1} + \dots + \text{棟n)}} = \text{校舎の健全度}$$

※4 平成30年3月末時点の判定結果

元号・西暦対照表

元号	西暦	元号	西暦
令和 5 年	2023 年	令和 28 年	2046 年
令和 6 年	2024 年	令和 29 年	2047 年
令和 7 年	2025 年	令和 30 年	2048 年
令和 8 年	2026 年	令和 31 年	2049 年
令和 9 年	2027 年	令和 32 年	2050 年
令和 10 年	2028 年	令和 33 年	2051 年
令和 11 年	2029 年	令和 34 年	2052 年
令和 12 年	2030 年	令和 35 年	2053 年
令和 13 年	2031 年	令和 36 年	2054 年
令和 14 年	2032 年	令和 37 年	2055 年
令和 15 年	2033 年	令和 38 年	2056 年
令和 16 年	2034 年	令和 39 年	2057 年
令和 17 年	2035 年	令和 40 年	2058 年
令和 18 年	2036 年	令和 41 年	2059 年
令和 19 年	2037 年	令和 42 年	2060 年
令和 20 年	2038 年	令和 43 年	2061 年
令和 21 年	2039 年	令和 44 年	2062 年
令和 22 年	2040 年	令和 45 年	2063 年
令和 23 年	2041 年		
令和 24 年	2042 年		
平成 25 年	2043 年		
令和 26 年	2044 年		
令和 27 年	2045 年		